

第1回在宅医療・介護スクラム塾（多職種連携研修会） 福法倫が斬る！？「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

テーマ：『治療や支援を拒むのはなぜ？？～糖尿病治療の再開に向けて～』

講師：沖縄大学 人文学部 福祉文化学科 教授／社会福祉士 玉木 千賀子 氏
ゆいま～る法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏
琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏



司会：安里 千文 氏

○日 時：令和7年7月15日（火） 午後7時00分～9時00分

○場 所：沖縄県医師会・3階ホール

○参加者：30名（看護師3名、保健師2名、MSW1名、薬剤師4名、リハビリ3名、
介護職2名、ケアマネジャー・ケアプランナー12名、精神保健福祉士2名、その他1名）

【目的】困難事例を多角的に学び、複雑な問題に直面したときの対処能力を向上させる。

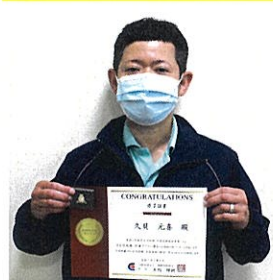
困難事例との出会いで新たな経験を得ることで、学びを深め自己成長を目指す。

【方法】事例＋問い、グループワーク（事例検討 ⇒ 多職種それぞれの視点から意見交換）

サマリー 参加者より、「課題解決思考、スキルだけになっている自分に気付かされた。困難事例の悪循環を脱却するため、ナラティブアプローチの視点（倫理）を持つ大切さを知る事ができた。また、その方のみならず、ご家族も含めてその方の幸せが何なのか、急がせず、その方のペースに合わせて支えることの必要性を学んだ」、「福祉の視点では、求め・必要・合意の3つのキーワードが参考になった」、「法律的な視点では、治療や支援を拒む人の気持ちを理解し、ご家族を含めた支援（息子の借金問題）も一緒になって考えていくという寄り添う姿勢の大切さを学んだ」など、研修内容に充実したご意見が多数あり、参加者にとって新しい視点や気付きなど多くの学びを得られた研修会になったかと思われる。

また、今後取り上げてほしい困難事例として「在宅での生活は限界に来ているが、在宅生活の継続を強く望んでいる事例」や「キーパーソンに依存度が高すぎる事例」などのニーズがあったため、今後検討していきたい。

令和7年度 全過程修了マイスター授賞、誠におめでとうございます。



久見 元喜 氏

小規模多機能ホームうえの家

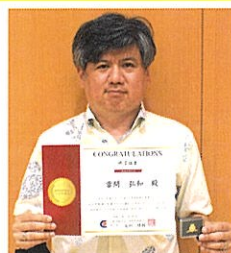
介護福祉士／管理者



金城 孝郎 氏

セレニティパークジャパン沖縄

理学療法士



富間 弘和 氏

株式会社リンクス

地域連携部 部長

有料老人ホーム 入居相談員

グループワーク



【講師】
玉木 千賀子 氏
沖縄大学 福祉文化学科 教授
社会福祉士



【講師】
寺田 明弘 氏
ゆいま～る法律事務所
弁護士



【講師】
金城 隆展 氏
琉球大学病院 地域・国際医療部
臨床倫理士



発表



福法倫が斬る!?「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

日 時：令和7年7月15日（火） 19時00分～21時10分

場 所：沖縄県医師会・3階ホール

テーマ：『治療や支援を拒むのはなぜ?? ～糖尿病治療の再開に向けて～』

講 師：玉木 千賀子 氏（社会福祉士）、寺田 明弘 氏（弁護士）、金城 隆展 氏（臨床倫理士）

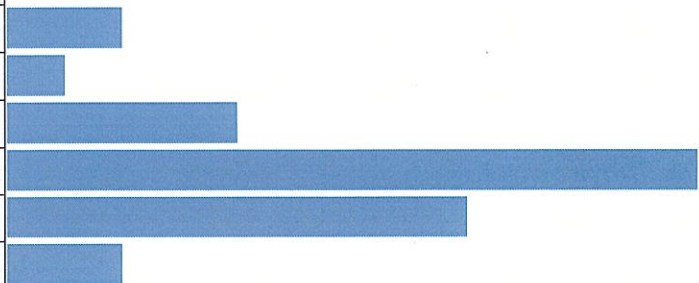
参加者：30名（看護師3名、保健師2名、MSW1名、薬剤師4名、リハビリ3名、介護職2名

ケアマネジャー・ケアプランナー12名、精神保健福祉士2名、その他1名）

アンケート回答者：29名（回収率97%）

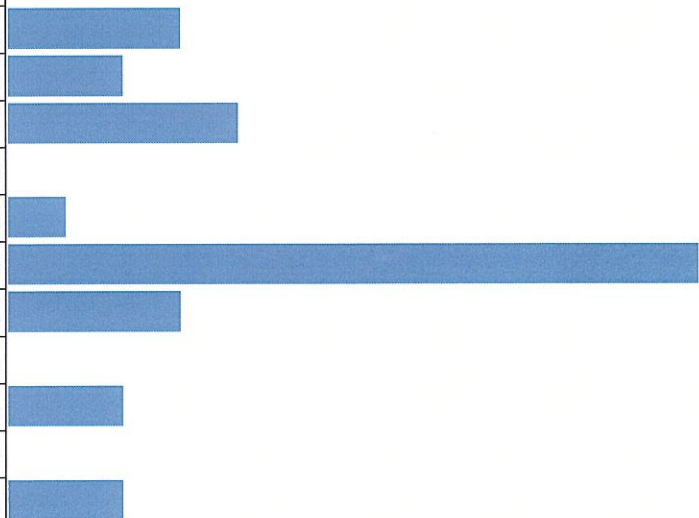
1. 経験年数について

経験年数	人数	割合
1年未満	2	7%
1～5年未満	1	3%
6～10年未満	4	14%
11～20年未満	12	41%
21～30年未満	8	28%
31年以上	2	7%
総計	29	100%



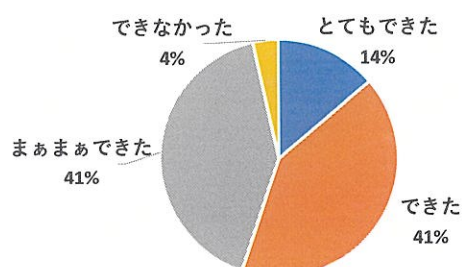
2. 職種の内訳

職種	人数	割合
医師	0	0%
歯科医師	0	0%
看護師	3	10%
保健師	2	7%
薬剤師	4	14%
栄養士	0	0%
MSW	1	3%
ケアマネジャー・ケアプランナー	12	41%
リハビリ	3	10%
社会福祉士	0	0%
介護職（ヘルパー等）	2	7%
歯科衛生士	0	0%
その他	2	7%
総計	29	100%



3. グループワークでは、ご自身の意見を遠慮なく発言することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	4	14%
できた	12	41%
まあまあできた	12	41%
できなかった	1	4%
総計	29	100%



福法倫が斬る!?「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

*** グループワークに関するご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。**

・時間が短く進行が難しかったが、参加者のトレーニングにもなるので、このスタイルで良いと思う。

・いろいろな視点で話し合いができた。

・いろんな視点の意見が聞けて良かった。

・考える時間が少ないと思ったが、内容が濃いので納得。

・薬学的に考えると早く治療に持っていきたいが、こちら側の“あせり”が本人の意欲を削ぐこともあることを学んだ。今後の事例に活かそうと思った。

・発言しやすかった。グループの皆さん、すごく勉強されていて刺激を受けました。

・多職種の方の意見が聞けて勉強になった。

・多職種の各々の視点から話を伺えたので、とても楽しかった。

・短い時間の中で、一人ひとり意見を出せたので良かった。

・保健師、ケアマネ、薬剤師、理学療法士、看護師など多くの意見交換ができ勉強になった。

・多面的な視点からの気づきがあり、日頃より仕事の中で当たり前の考え方があったと思う。

・多職種のメンバーによるグループワークは、様々な視点からの意見が出てとても勉強になった。また同職種の先輩の意見も聞く事ができて、とても良かった。

・様々な職種の意見が聞けて楽しいです。

・各専門職の意見を聞く中で、改めて多職種連携の大切さを実感した。関わり続けることの大切さを改めて痛感した。

・久しぶりに参加し、過去の経験も思い出せ良い機会になった。長年、緩和医療に関わり救急現場での開発治験の同意説明、癌や慢性疾患、透析患者、長年症状に苦悩する方々と接し、キーパーソンとの協力を行い続けてきたことなど事例を思い出せた。今後の関わりへの工夫など考えていきたいと思った。

・同じケアマネという職種で重なる意見もあり、異なる意見もあり、楽しくディスカッションでき学びとなった。

・それぞれの職種からの視点が聞けて、違った考え方や初めて聞いた話なども多く、非常に勉強になった。

・各専門職からの意見が聞けて、自分の思っていなかった意見が聞けて良かった。

・専門職の中で、色々な考えや意見が聞けて勉強になった。専門職の皆さんの中で、似たような状況で成功体験したお話を聞かせてもらった。多職種連携の大切さ、自分一人で抱え込まず、悩みすぎず、相談する事が大切だと気づく機会だった。

・本人の幸福→人生の役割→今回は本人の家長としての役割の低下→自尊心の低下→エンパワメント低下→家族のトータルケア（全人的ケア、自然治癒力）

まさに（主人公/物語の欠如）人生ストップ

・遅れて参加したので最初は追いつけなかった。メンバーの意見もゆっくり聞きたかった。グループワーク②からは進行の方が、皆に配慮して進めてくれて良かった。

福法倫が斬る!?「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

- ・記録係と時間制限で、あまりできなかった。
- ・少し時間が短かった。もっといろいろな意見が聞きたかった。
- ・簡単な名札があると良かった。グループの人数的にはちょうど良い。

4. 3名の講師へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

- ・それぞれの視点からコメントを聞き、自身の実践や思考に大きな間違いはないと振り返りつつ、新しい学び・視野を広げることができた。ぜひ続けていただきたい。
- ・話しが分かりやすく、今後の支援の参考になった。倫理面での視点は特に参考になった。
- ・先生方の話はとても面白いというか、自分の考えの及ばないところから話があり良かった。専門性は違っても、同じことについて考え・意見を聞けて良かった。
- ・自分の専門領域では普段考えないようなことを学ぶことができた。
- ・違った立場で違った意見を聞けて役に立った。
- ・いろんな視点からの意見が聞けて参考になった。長男の借金問題まで解決することは、なかなか難しい。
- ・その方のみならず、ご家族も含めてその方の幸せが何なのか、急がせず、その方のペースに合わせて支えることの必要性を学びました。
- ・各専門職の貴重な意見が聞けて学びになった。多角的な視点で考える事ができた。
- ・「最低限の倫理・最大限の倫理」の言葉がとても響いた。
- ・先生方の視点の違う意見がとても参考になった。
- ・私たちの幸福感・価値観を考える機会となった。本人のみならず、息子・息子嫁、家族を含めたサポートが大切だと感じた。法的な支援（息子の借金解決）をすることで、病院への付き添いが可能となったのかなと思えた。スキルとナラティブの違いが悪循環を切るものであると学んだ。
- ・福祉・法律・倫理の視点からの学びがあり、特にナラティブの考え方も含め、もっと学びたいと思った。3名の先生方の話はすごく心に響き、いろいろ考えさせられた。
- ・先生方のお話はとても勉強になった。気づかなければいけないことに気づけるように視点を変えて、一人ひとりの視点から考えられる様になりたい。
- ・自分の中にない視点での話が聞けて、とても勉強になった。
- ・先生方のご意見が毎回勉強になる。
- ・各々の立場（専門性）から、同じ事例に違う切り口でコメントがあり、とても勉強になった。
- ・いろいろな分野からの意見、毎回勉強になる。困難事例を解決するには多くの方の協力、仲間を増やすことに気づきがあった。
- ・自分の立場からは考えもしなかった意見がでて、とても勉強になった。
- ・とても分かりやすく勉強になった。資料も良かった。
- ・専門的な立場の各講師の意見を聞いたことが、一番の学びになった。

福法倫が斬る!?「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

- ・課題解決思考、スキルになっている自分に気付かされた。困難事例の悪循環を脱却するため、ナラティブアプローチの視点を持つ大切さを知ることができた。本人だけでなく家族全体が支援対象であることを再認識させられた。ありがとうございました。
- ・皆さんの視点到賛同している。倫理面のグループディスカッションなど、過去に取り組んでいた頃を思い出した。若い頃よりチーム医療にて牽引してきて、関係者のバーンアウトを防ぐことに努めてきたため、参考にさせていただきたいと思った。
- ・ナラティブというスキルを上手く使い分けながら支援していく。亡くなった方もキーパーソンになることができるという、視点の切り替えに気づいた。人は役割を持つことで、そこに居場所ができ幸せな人生を作ることができる。
- ・本人を知ること、亡くなった人でもキーパーソンになれること、役割を持つことが本人の幸せに繋がるのでは？といった話がすごく印象に残った。
- ・スキルとナラティブ、長男の金銭問題も視野に入れる、求めと必要と合意、大切なキーワードをいただいた。
- ・考え方が勉強になった。
- ・今年度もよろしくお願いします。

5. 本研修会全体へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

- ・毎回テーマが良く、現場に活かせると思う。
- ・様々な職種の方の考え方を聞けて良かった。勉強になった。
- ・事例がハッピーに進行しているので安心した。
- ・開催時間を早めてほしい。事例を通して日頃の業務に活かしていきたい。
- ・本人へいろんな働きかけがあること、いろんな支援方法があることなど、自分では思いつかないこともあり勉強になった。
- ・機会があれば、参加を継続したい。
- ・研修会が継続していくと地域全体の意識も上がっていくので、とても良い会だと思った。
- ・毎回、困難事例のストーリーから様々なことを妄想して楽しませてもらっている。
- ・治療や支援を拒む人の気持ちを理解すること、多職種で共有することが大切と感じた。
- ・準備から運営まで、研修内容も良く、本当にありがとうございました。
- ・3名の先生方のご意見によって、考えさせられることがそれぞれでとても勉強になった。
- グループワークもとても話しやすい状況で、とても良かった。ぜひ次も参加したい。
- ・まだ経験が浅いので、いろいろな事例への多方向の意見が聞けて、とても勉強になる。
- ・今回のような事例検討はとても勉強になる。
- ・多職種の意見を聞くのは励みになる。毎回楽しみにしている。
- ・資料が分かりやすく、とても良い事例だった。本人のストレングスの引き出しに着目して支援していきたいと思う。待つ姿勢が大事。
- ・ぜひ、今後も参加し続け、色々と考えていきたいと思う。初めて参加しましたが、とても良い時間を過ごせた。

福法倫が斬る!?「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

- ・楽しく学ぶことができて、ありがたい。
- ・少しずつ、その時々・場面一度立ち止まり、ゆっくり時間をかけて考えることができ発言することができたので、理解度も深まりやすい研修だった。
- ・前年度より、ワークがシェイプされ考えやすい（シェアしやすい）
- ・福・法・倫の視点、考え方から新しい展開を見ることができた。
- ・那覇市医師会の研修なので、場所を市内でできないか？南風原までの移動に時間がかかる。
- ・グループワークで名前をすぐ忘れるので、名刺を入れるカード立てのようなものがあると良い。
- ・空調が効きすぎでした。

6. 本研修で取り上げて欲しい困難事例がありましたら、お聞かせ下さい。

- ・在宅での生活は限界に来ているが、在宅生活の継続を強く望んでいる。
- ・ハラスメント（セクハラ）をする利用者への介護
- ・住宅問題、相続で揉めている（一家全員が精神科）
- ・虐待事例
- ・自立支援について、ヘルパーさんをお手伝いだと思っている利用者がいる。どのようにアプローチしていけば良いか少し悩んでいる。
- ・難病など症例の少ないケア
- ・身寄りなし、緩和ケア
- ・ヤングケアラーの事例や8050世帯の事例
- ・アルコール依存者の生活課題・解決の事例
- ・認知症に関する困難事例
- ・色々なキーパーソン事例を取り上げて欲しい。キーパーソンに依存度が高すぎる事例も考えてみたい。特に決定事項に不満をため込んでいるケースを考えてみたい。
- ・大人の発達障害（ADHD、ASD等）の介入困難例